

## 第7章 資格取得に対する評価、追加取得の予定

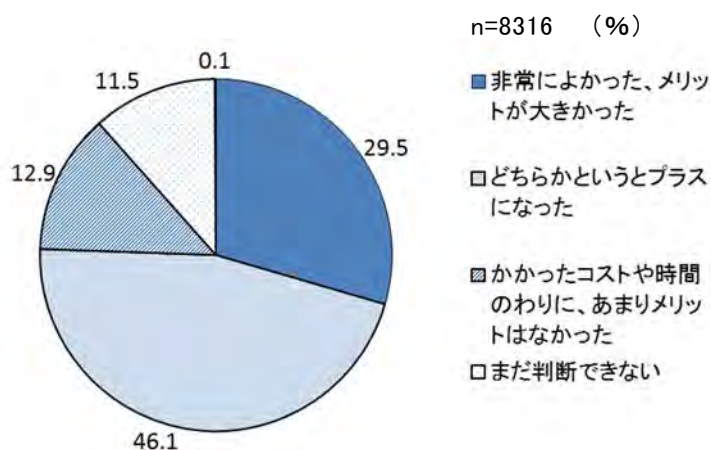
### 第1節 資格取得に対する評価

資格を所持している人は、自分がその資格を取得したことについて、総合的に判断してどのように評価しているかをたずねた。

全体集計でみると、「非常によかった、メリットが大きかった」(29.5%)、「どちらかというプラスになった」(46.1%)を合わせて4人に3人が肯定的評価となっている(図表7-1)。

資格分野別にみると、医療分野において、「非常によかった」と高く評価する割合が半数を超え、満足度が高くなっている。(図表7-2)

図表7-1 資格を取得したことについての総合的評価



図表7-2 資格を取得したことについての総合的評価(資格分野別)

MA (%)

分野	非常によかった、メリットが大きかった	どちらかというプラスになった	かかったコストや時間のわりに、あまりメリットはなかった	まだ判断できない	無回答	合計	n
技能検定、技術士	26.0	54.3	13.4	6.3	0.0	100.0	127
介護・福祉	27.3	49.0	13.4	10.2	0.0	100.0	626
医療	52.8	34.7	7.1	5.1	0.3	100.0	1307
生活・衛生	21.6	46.4	17.6	14.4	0.0	100.0	472
製造・安全衛生・車両	16.7	54.4	14.9	13.9	0.1	100.0	906
建築・土木・電気・不動産	30.2	47.1	12.2	10.4	0.1	100.0	732
IT・OA	16.9	57.5	15.1	10.5	0.0	100.0	325
経理・財務・法務・労務	31.6	45.1	11.1	12.2	0.0	100.0	819
事務・販売・語学・観光	19.0	49.5	17.1	14.5	0.0	100.0	643
教育、その他	34.7	36.7	16.3	12.2	0.0	100.0	498
合計	30.6	45.6	12.9	10.8	0.1	100.0	6455

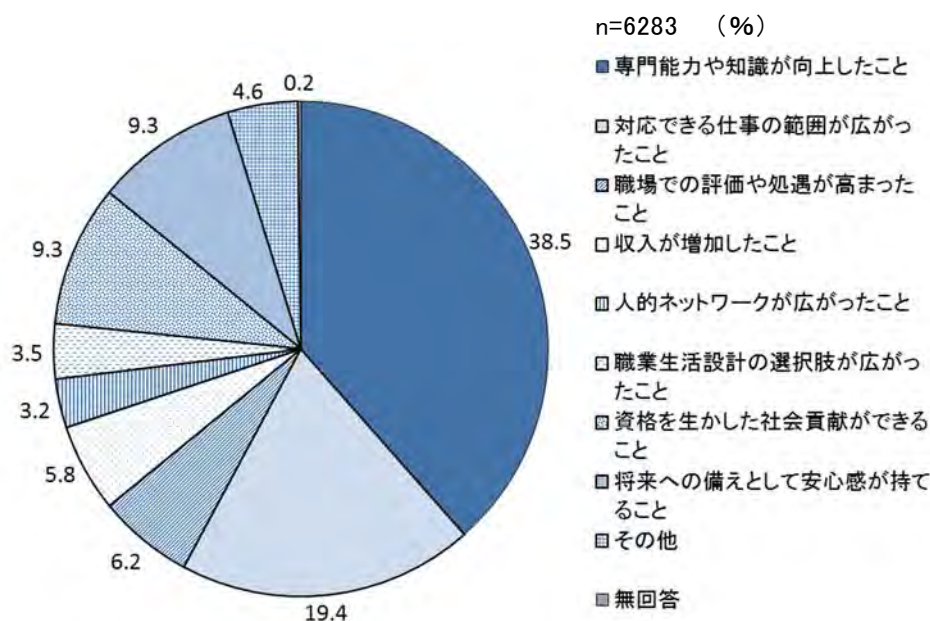
※本表は資格別集計対象サンプルのみの集計

資格区分別にみると、おおむねどの資格も肯定的評価の割合が高いが、特に、作業療法士、理学療法士、助産師、不動産鑑定士では「非常によかった」の比率が7割を超えるなど、資格取得に対する評価が高くなっている（54 ページ付表4）。

「非常によかった、メリットが大きかった」及び「どちらかというプラスになった」と肯定的な評価をする人（計 6283 人）に対して「最もよかった」と思うことをたずねたところ、「専門能力や知識が向上したこと」（38.5%）が最も多く、次いで、「対応できる仕事の範囲が広がったこと」（19.4%）をあげる回答が多くなっている（図表7-3）。

在職中に資格を取得した人の状況の項でみたように（第4章27～29 ページ）、資格取得と処遇などの変化が必ずしも直接に結びついていないことを反映して、「職場での評価や処遇が高まったこと」（6.2%）や「収入が増加したこと」（5.8%）などの実際的メリットよりも、「資格を活かした社会貢献ができること」（9.3%）や「将来への備えとして安心感が持てること」（9.3%）といった、広い視野で評価する人の割合が高くなっている。

図表7-3 資格を取得して最もよかったこと



資格分野別にみると、「最もよかった」と思うこととして、製造・安全衛生・車両関係を除き、「専門能力や知識が向上したこと」とする回答が最も多い（図表7-4）。製造・安全衛生・車両では「対応できる仕事の範囲が広がったこと」が「専門能力や知識」を若干上回り、最も多くなっている。資格分野による特徴としては、医療では「資格を生かした社会貢献ができること」をあげる回答が多く、建築・土木・電気・不動産では「対応できる仕事の範囲が広がったこと」、生活・衛生では「将来への備えとして安心感が持てること」、IT・OAでは「職場での評価や処遇が高まったこと」をあげる回答の比率が他の資格と比べて高い。

図表7-4 資格を取得して最もよかったこと(資格分野別)

分野	MA (%)										合計	n
	専門能力や知識が向上したこと	対応できる仕事の範囲が広がったこと	職場での評価や処遇が高まったこと	収入が増加したこと	人的ネットワークが広がったこと	職業生活設計の選択肢が広がったこと	資格を生かした社会貢献ができること	将来への備えとして安心感が持てること	その他	無回答		
技能検定、技術士	43.1	19.6	11.8	3.9	6.9	1.0	2.9	5.9	4.9	0.0	100.0	102
介護・福祉	32.6	16.7	4.0	7.9	4.0	4.2	13.6	13.4	3.3	0.2	100.0	478
医療	43.7	12.3	2.8	8.0	2.1	2.7	17.8	8.3	2.1	0.1	100.0	1143
生活・衛生	45.8	15.0	4.4	2.5	2.8	3.4	7.5	13.7	5.0	0.0	100.0	321
製造・安全衛生・車両	29.8	33.1	7.5	5.7	2.6	3.4	3.3	10.2	4.3	0.0	100.0	644
建築・土木・電気・不動産	34.6	26.9	5.8	7.2	1.9	5.8	4.2	8.5	4.9	0.0	100.0	566
IT・OA	46.3	14.9	12.4	5.8	0.0	3.3	2.9	9.5	3.7	1.2	100.0	242
経理・財務・法務・労務	38.7	17.8	5.6	4.9	5.1	4.5	8.0	10.2	5.3	0.0	100.0	628
事務・販売・語学・観光	36.4	18.6	9.5	3.4	4.8	3.9	4.8	9.1	9.1	0.5	100.0	440
教育、その他	43.0	15.4	4.2	2.8	4.8	3.9	13.2	6.5	6.2	0.0	100.0	356
合計	38.7	19.1	5.7	5.9	3.2	3.8	9.5	9.6	4.5	0.1	100.0	4920

※本表は資格別集計対象サンプルのみの集計

## 第2節 新たな資格取得の予定

資格を所持している人のうち、今後さらに新たな資格を取得したいと考えている人はどれくらいいるのだろうか。全体集計でみると、「新たな資格取得に向けて勉強中」が10.5%、「新たな資格を取得することを検討中」が21.2%と、約3割が追加取得を考えている（図表7-5）。

資格分野別にみると、介護・福祉分野の資格を所持している人において、「勉強中」及び「検討中」との回答割合が最も高い（図表7-6）。

図表7-5 新たな資格取得の予定



※「勉強中」と「検討中」は複数回答可（複数回答者78人）

図表7-6 新たな資格取得の予定(資格分野別)

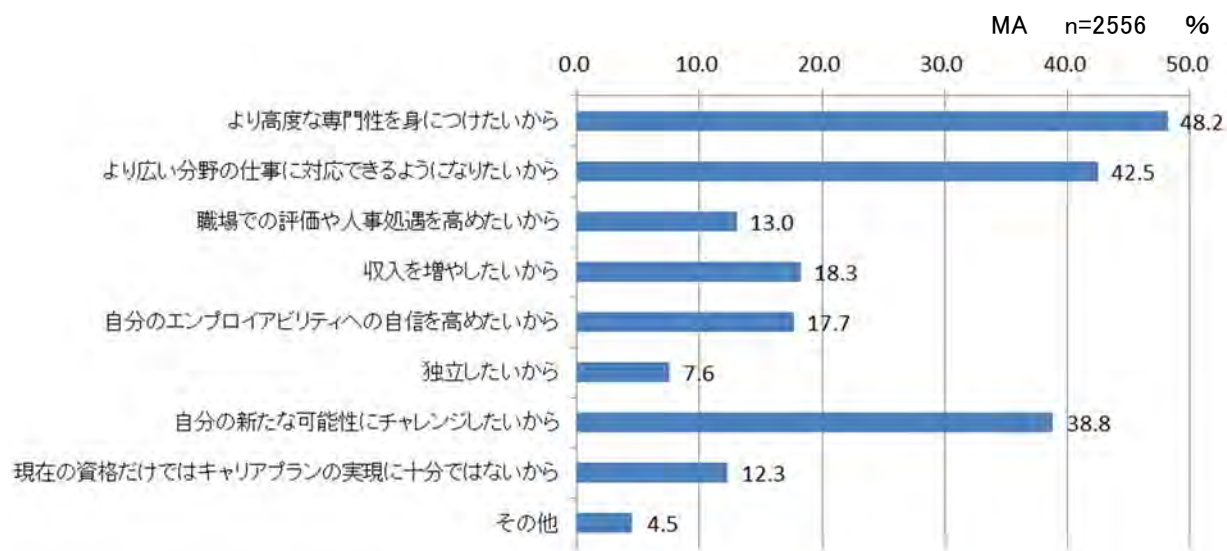
分野	MA (%)			合計	n
	新たな資格取得に向けて勉強中	新たな資格を取得することを検討中	現時点で予定はない		
技能検定、技術士	14.2	22.0	65.4	100.0	127
介護・福祉	14.9	27.0	59.6	100.0	626
医療	6.8	19.6	74.1	100.0	1307
生活・衛生	6.8	17.4	76.9	100.0	472
製造・安全衛生・車両	6.0	17.3	77.4	100.0	906
建築・土木・電気・不動産	9.8	18.9	72.1	100.0	732
IT・OA	12.3	25.5	63.1	100.0	325
経理・財務・法務・労務	14.2	23.4	63.2	100.0	819
事務・販売・語学・観光	11.2	23.8	65.5	100.0	643
教育、その他	6.6	16.5	77.5	100.0	498
合計	9.6	20.8	70.4	100.0	6455

※本表は資格別集計対象サンプルのみの集計

「新たな資格取得に向けて勉強中」または「新たな資格を取得することを検討中」とする人（2556人）に対して、新たな資格の取得を考える理由をたずねた。最も多かった回答は、「より高度な専門性を身につけたい」（48.2%）であり、半数近くの人がこれをあげている。次いで、「より広い分野の仕事に対応したい」（42.5%）、「新たな可能性にチャレンジしたい」（38.8%）などが多く、専門性の向上や可能性の拡大をめざす姿勢がうかがえる（図表7-7）。

資格分野別にみても、全体の傾向とほぼ同様であるが、事務・販売・語学・観光分野の資格を所持している人において、「自分の新たな可能性にチャレンジしたい」との回答が特に多い（図表7-8）。

図表7-7 新たな資格取得を考える理由



図表7-8 新たな資格取得を考える理由（資格分野別）

分野	MA (%)									合計	n
	より高度な専門性を身につけたいから	より広い分野の仕事に対応できるようになりたいから	職場での評価や人事処遇を高めたいから	収入を増やしたいから	自分のエンプロイアビリティへの自信を高めたいから	独立したいから	自分の新たな可能性にチャレンジしたいから	現在の資格だけではキャリアプランの実現に十分ではないから	その他		
技能検定、技術士	54.5	45.5	9.1	13.6	18.2	11.4	43.2	15.9	2.3	100.0	44
介護・福祉	53.4	51.0	16.7	27.5	23.5	8.0	37.8	15.9	3.6	100.0	251
医療	48.2	51.2	11.8	17.5	14.8	4.7	37.0	10.4	2.1	100.0	338
生活・衛生	39.4	32.1	4.6	14.7	22.9	9.2	43.1	10.1	11.0	100.0	109
製造・安全衛生・車両	42.0	42.9	11.7	21.5	14.1	6.8	32.2	15.6	3.9	100.0	205
建築・土木・電気・不動産	43.8	39.4	10.8	19.2	11.8	4.4	36.5	10.8	3.0	100.0	203
IT・OA	50.0	35.8	19.2	15.0	15.0	2.5	32.5	10.0	3.3	100.0	120
経理・財務・法務・労務	53.7	47.7	10.0	13.0	16.7	9.7	36.0	12.3	3.3	100.0	300
事務・販売・語学・観光	47.7	35.9	11.8	14.1	19.1	6.4	52.7	9.5	8.2	100.0	220
教育、その他	43.8	50.9	17.9	17.9	26.8	13.4	34.8	12.5	5.4	100.0	112
合計	48.1	44.5	12.4	17.9	17.6	7.1	38.3	12.1	4.3	100.0	1902

※本表は資格別集計対象サンプルのみの集計

## 第8章 これから資格を取得したい人のニーズと意識

最後に、これから職業資格を取得したいと考えている人（1011人）のニーズや意識についてみる。

### 第1節 取得したいと考えている資格

取得したいと考えている資格として多くあがったのは、語学検定（126人）、ファイナンシャル・プランナー（104人）、簿記（101人）、宅地建物取引主任者（82人）、IT関連企業の能力認定（82人）、社会保険労務士（70人）などである。（図表8-1）

このうち最も取得したい資格は、語学検定（75人）を筆頭に、簿記（62人）、ファイナンシャル・プランナー（51人）などとなっており、全体としてビジネス系の資格をあげる人が多くなっている。

図表8-1 取得したいと考える人が多い資格区分（取得したい人が多い順に30資格区分）

資格区分	取得したい （人数）	最も取得した い（人数）
語学検定（英検・TOEIC・TOEFLなど）	126	75
ファイナンシャル・プランナー	104	51
簿記	101	62
宅地建物取引主任者	82	44
IT関連企業の能力認定	82	36
社会保険労務士	70	39
行政書士	65	21
大型自動車免許	63	29
ITパスポート	61	19
医療事務	61	27
技術士	58	31
基本情報技術者	53	13
調理師	51	18
危険物取り扱い者	51	14
フォークリフト技能者	49	14
栄養士、管理栄養士	47	22
マンション管理士	47	19
中小企業診断士	46	21
司書	43	14
技能士（ものづくり、工事、整備関連分野）	39	9
消費生活アドバイザー	38	15
普通自動車免許（二種）	36	11
司法書士	35	17
電気工事士	34	15
色彩検定	32	12
訪問介護員2級・介護職員初任者研修	31	15
日商PC検定	31	8
保育士	30	13
社会福祉士	29	7
衛生管理者	29	8

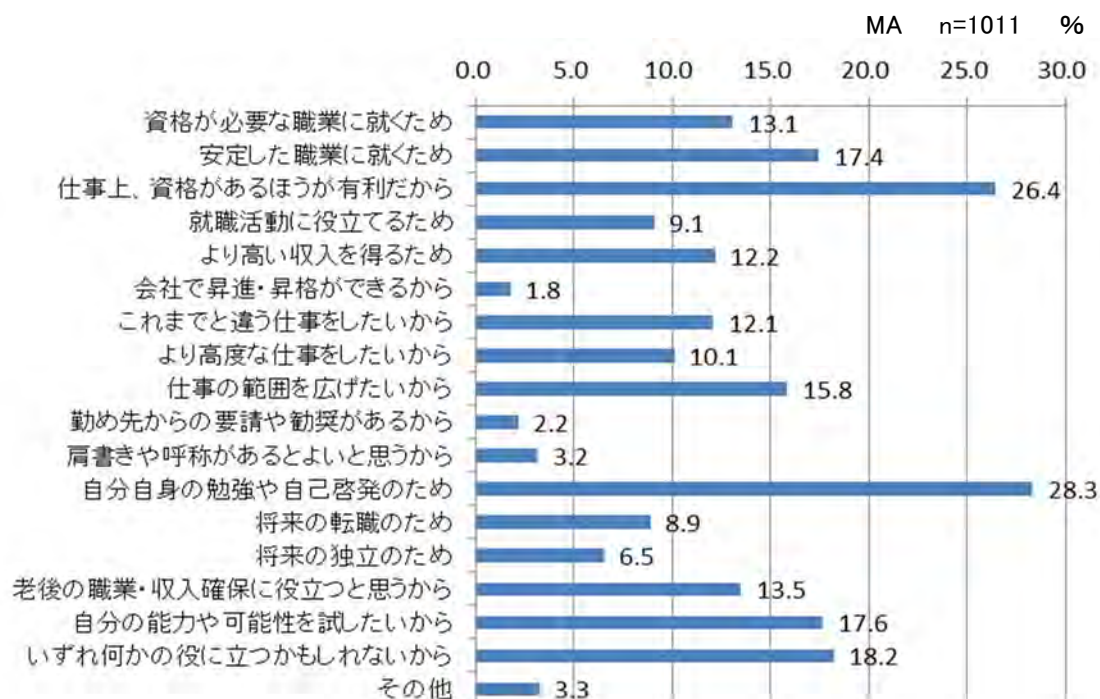
※資格別集計の対象としていない資格区分を含む。「その他」区分は除く。

## 第2節 資格取得の動機、取得したい資格の魅力

### (1) 資格取得の動機

資格を取得しようと思う理由は「自分自身の勉強や自己啓発」(28.3%)、「仕事上資格があるほうが有利」(26.4%)、「いずれ何かの役に立つかもしれないから」(18.2%) などとなっており、すでに資格を所持している人と比べると、就職や仕事に直接つながる回答が少なく、また、全体に回答が分散している(図表8-2)。

図表8-2 資格を取得しようと思う理由



属性別にみると、男女間では「勉強や自己啓発」で差が大きく(女性が多い)、年齢層別では、20~30代の比較的若い層で「安定した仕事に就く」や「仕事上、資格があるほうが有利」、「より高い収入を得る」などをあげる回答割合が高く、60代では他の年齢層に比べて「自分の能力や可能性を試したい」とする割合が高いといった傾向がみられる(図表8-3)。

図表8-3 資格を取得しようと思う理由(属性別)

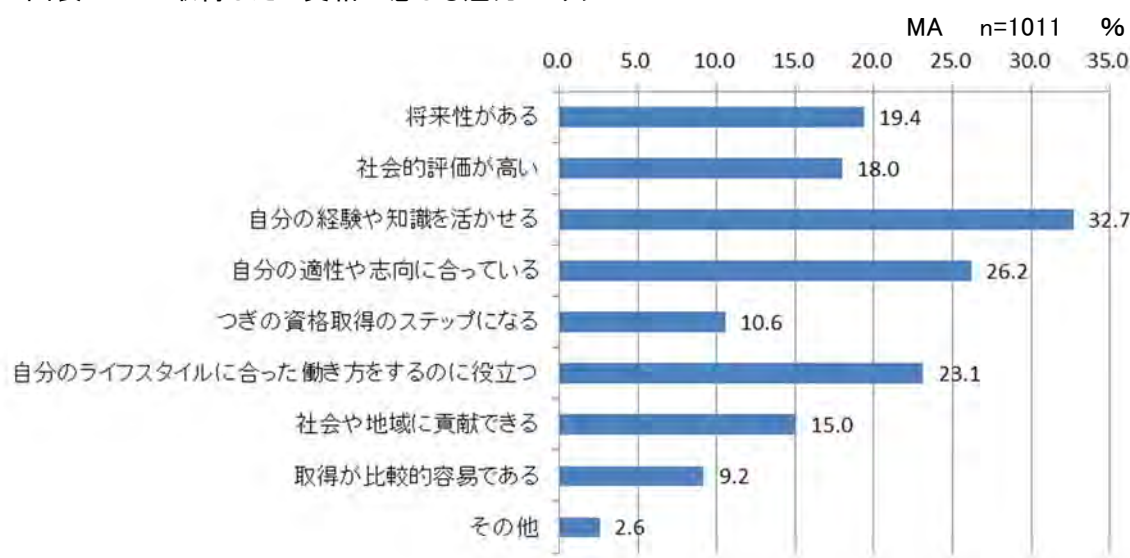
取得動機	MA (%)							
	男	女	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
資格が必要な職業に就くため	12.0	14.8	16.3	18.7	13.4	9.2	10.6	13.1
安定した職業に就くため	17.0	18.1	20.4	26.1	15.4	17.9	8.8	17.4
仕事上、資格があるほうが有利だから	27.3	25.0	36.7	36.9	28.5	22.1	12.5	26.4
就職活動に役立てるため	7.3	12.0	10.2	11.8	8.6	8.4	7.5	9.1
より高い収入を得るため	12.8	11.2	22.4	16.3	13.1	10.3	5.0	12.2
会社で昇進・昇格ができるから	1.9	1.5	6.1	2.0	2.1	1.1	0.6	1.8
これまでと違う仕事をしたいから	12.0	12.2	2.0	13.8	11.0	12.6	14.4	12.1
より高度な仕事をしたいから	10.7	9.2	10.2	16.3	7.7	9.2	8.8	10.1
仕事の範囲を広げたいから	16.2	15.3	12.2	22.7	15.4	14.5	11.3	15.8
勤め先からの要請や勧奨があるから	2.7	1.3	4.1	1.5	4.7	0.4	0.0	2.2
肩書きや呼称があるとよいと思うから	3.4	2.8	2.0	5.4	3.3	2.7	1.3	3.2
自分自身の勉強や自己啓発のため	23.7	35.5	30.6	28.6	24.6	28.6	34.4	28.3
将来の転職のため	7.8	10.7	18.4	14.3	8.6	7.6	1.9	8.9
将来の独立のため	7.6	4.8	2.0	8.9	6.5	8.4	1.9	6.5
老後の職業・収入確保に役立つと思うから	13.1	14.0	6.1	7.4	9.2	19.1	23.1	13.5
自分の能力や可能性を試したいから	15.2	21.4	16.3	15.3	14.8	14.9	31.3	17.6
いずれ何かの役に立つかもしれないから	16.5	20.9	20.4	19.7	18.7	16.0	18.1	18.2
その他	3.2	3.3	2.0	0.5	2.4	5.0	6.3	3.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n	619	392	49	203	337	262	160	1011

## (2) 取得したい資格の魅力、メリット

取得したいと考えている資格の魅力・メリットとしては、「自分の経験や知識を活かせる」(32.7%)、「自分の適性や志向に合っている」(26.2%)をあげる回答が多く、これはすでに資格を所持している人と共通の傾向であるが、資格所持者と比べると、「自分のライフスタイルに合った働き方をするのに役立つ」(23.1%)が多く、逆に、「取得が比較的容易である」(9.2%)が少なくなっている(図表8-4)。



図表8-4 取得したい資格に感じる魅力・メリット



属性別にみると、男女別では、「経験・知識を活かせる」や「適性・志向に合っている」が上位であることは共通しているが、女性では「ライフスタイルに合った働き方」、男性では「社会的評価が高い」をあげる割合が高い。年齢層別では、若い年齢層ほど「将来性」や「社会的評価」をあげる割合が高い（図表8-5）。

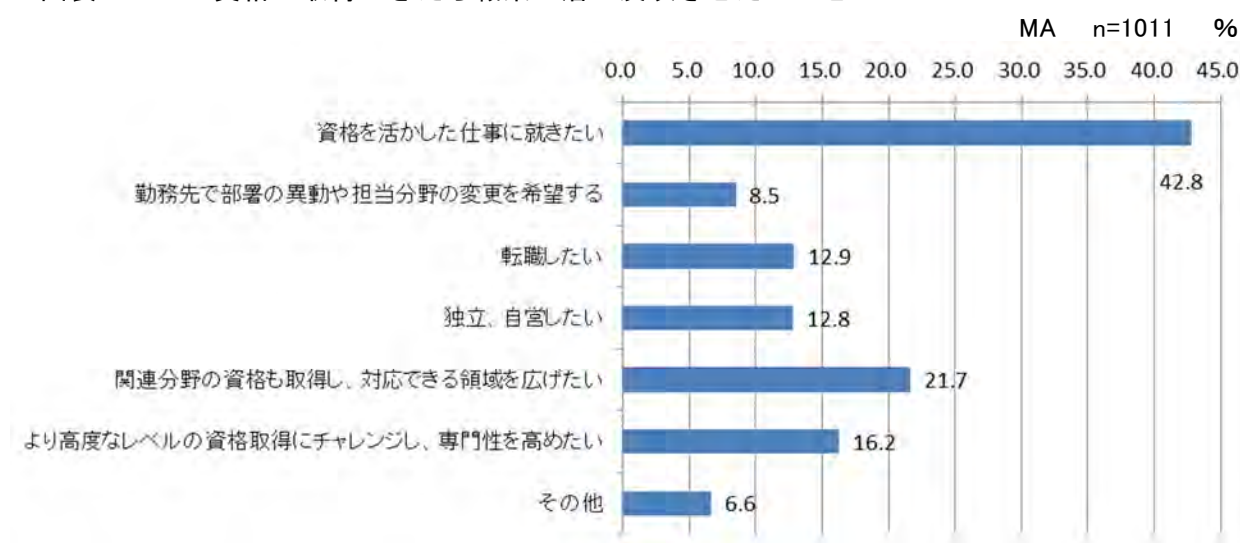
図表8-5 取得したい資格に感じる魅力・メリット(属性別)

魅力・メリット	MA (%)							
	男	女	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
将来性がある	16.8	23.5	40.8	26.6	20.2	15.6	8.1	19.4
社会的評価が高い	20.8	13.5	26.5	21.7	19.0	14.9	13.8	18.0
自分の経験や知識を活かせる	33.0	32.4	22.4	32.5	29.1	32.1	45.0	32.7
自分の適性や志向に合っている	23.6	30.4	20.4	29.6	24.6	26.0	27.5	26.2
つぎの資格取得のステップになる	9.4	12.5	8.2	16.3	11.6	8.0	6.3	10.6
自分のライフスタイルに合った働き方をするのに役立つ	20.2	27.8	10.2	25.1	21.7	23.7	26.9	23.1
社会や地域に貢献できる	13.2	17.9	10.2	12.8	9.5	17.9	26.3	15.0
取得が比較的容易である	11.3	5.9	10.2	5.9	8.6	12.2	9.4	9.2
その他	2.3	3.1	4.1	0.5	2.7	3.4	3.1	2.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n	619	392	49	203	337	262	160	1011

### 第3節 資格取得と職業生活設計との関係

資格が取得できたら職業生活設計に反映させたいこととしては、「資格を活かした仕事に就きたい」が最も多く、4割強（42.8%）の人が希望しており、「関連分野の資格も取得し、対応できる領域を広げたい」が2割強（21.7%）となっている。「転職したい」（12.9%）や「独立、自営したい」（12.8%）といった労働移動を伴う希望は、それぞれ1割強となっている（図表8-6）。

図表8-6 資格が取得できたら職業生活に反映させたいこと



属性別にみると、男女別では、女性において「資格を活かした仕事に就きたい」をあげる比率が男性を大きく上回り、年齢層別では、「転職したい」をあげる比率が若年層ほど、「独立、自営したい」をあげる比率が高齢層ほど高い（図表8-7）。

図表8-7 資格が取得できたら職業生活に反映させたいこと(属性別)

MA (%)

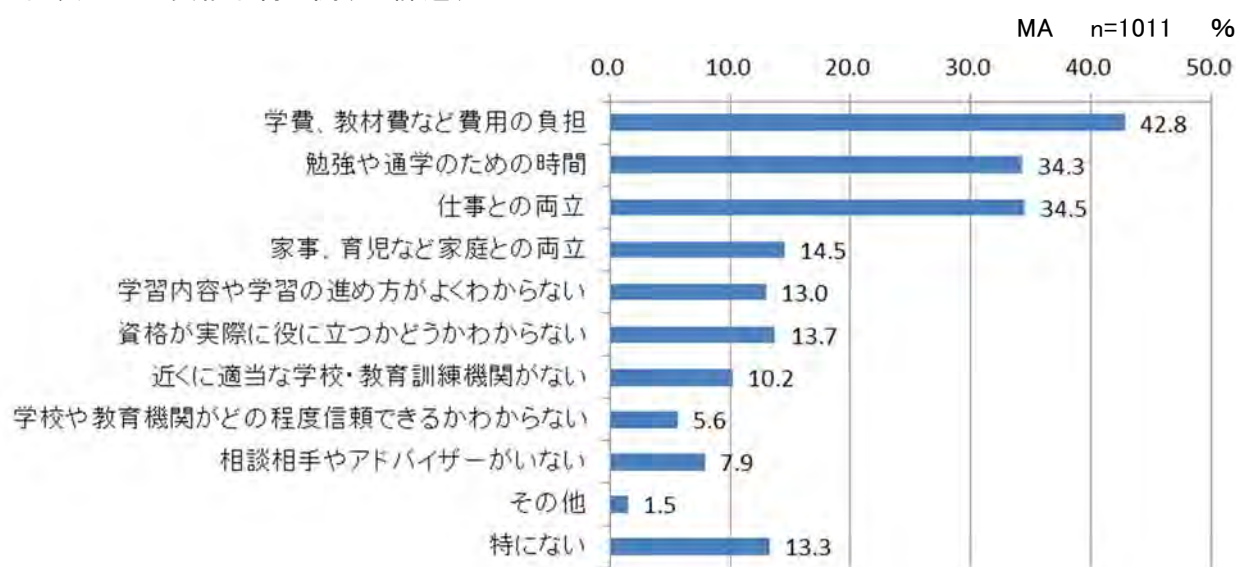
職業生活設計への反映希望	男	女	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
資格を活かした仕事に就きたい	35.5	54.3	46.9	53.2	41.2	38.9	38.1	42.8
部署の異動や担当分野の変更を希望	10.2	5.9	12.2	9.9	11.0	6.9	3.1	8.5
転職したい	12.6	13.3	28.6	14.8	14.2	12.2	3.8	12.9
独立、自営したい	14.2	10.5	8.2	12.8	10.7	14.9	15.0	12.8
関連分野の資格取得、対応領域を広げたい	24.2	17.6	24.5	19.2	22.0	22.9	21.3	21.7
より高度なレベルの資格取得、専門性を高めたい	17.8	13.8	16.3	17.2	12.8	16.4	21.9	16.2
その他	7.1	5.9	0.0	2.5	5.6	8.4	13.1	6.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n	619	392	49	203	337	262	160	1011

#### 第4節 資格取得に関する課題、心配なこと

これから資格を取得したいと考えている人は、資格取得に関して、どのようなことを課題と感じ、心配しているのだろうか。

最も多くあげられたのが「学費、教材費などの費用負担」(42.8%)で4割を超え、次いで「仕事との両立」(34.5%)、「勉強や通学のための時間」(34.3%)などの回答が多くなっている(図表8-8)。このように、費用負担が大きな心配事となっているほか、全般に課題や心配を感じるとしている項目が多く、「特にない」が1割強(13.3%)と、資格所持者全体の回答(「資格取得に関して課題になったこと、苦勞したこと」は「特にない」45.0%)と比べると少なくなっている。

図表8-8 資格取得に関する課題、心配なこと



属性別にみると、男女別では、女性において「費用負担」、「家事、育児など家庭との両立」をあげる比率が男性を大幅に上回り、年齢層別では、30～40代の中年層で課題をあげる割合が高く、費用の負担、勉強時間の確保、仕事や家庭との両立など、資格取得のための活動に伴う生活への影響について不安を感じていることがうかがえる(図表8-9)。また、20代では(サンプル数は少ないが)、「学習内容や学習の進め方がよくわからない」、「相談相手やアドバイザーがない」をあげる割合が他の年齢層より高い。

図表8-9 資格取得に関する課題、心配なこと(属性別)

MA (%)

課題、心配なこと	男	女	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
学費、教材費など費用の負担	37.3	51.5	34.7	53.7	43.6	41.6	31.9	42.8
勉強や通学のための時間	35.1	33.2	36.7	40.4	37.7	35.5	16.9	34.3
仕事との両立	39.1	27.3	32.7	40.4	37.1	37.8	16.9	34.5
家事、育児など家庭との両立	3.6	31.9	14.3	27.6	19.0	6.9	1.3	14.5
学習内容や学習の進め方がよくわからない	11.0	16.1	20.4	18.2	12.5	8.8	11.9	13.0
資格が実際に役に立つかどうかわからない	12.4	15.8	10.2	13.8	14.2	16.4	9.4	13.7
近くに適当な学校・教育訓練機関がない	7.8	14.0	12.2	8.9	9.2	8.4	16.3	10.2
学校や教育機関がどの程度信頼できるかわからない	4.8	6.9	8.2	5.9	5.9	3.4	7.5	5.6
相談相手やアドバイザーがいない	7.6	8.4	12.2	8.9	8.6	5.3	8.1	7.9
その他	1.1	2.0	6.1	0.0	0.6	1.1	4.4	1.5
特になし	16.2	8.7	12.2	5.4	11.0	16.0	23.8	13.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
n	619	392	49	203	337	262	160	1011

## 第9章 まとめ

本調査は、中長期的なキャリア形成支援に向けたキャリア・コンサルティングの基礎資料とする目的で、職業資格の取得活動の実態と職業資格の取得に当たっての課題やニーズを把握したものである。調査結果に基づき、職業資格を取得した人がどのような意識や方法で取得のための活動を行い、どのような課題があったか（第3章）、仕事をしながら資格を取得したケースでは働き方や処遇に変化がみられたか（第4章）、仕事を辞めて取得活動を行ったケース等については就職活動に効果があったか（第5章）、自らの職業資格についてどのように評価しているか（第7章）、これから職業資格を取得したいと考えている人の意識やニーズはどのようなものか（第8章）等について、それぞれの章に取りまとめてきた。本章では、全体のまとめとして、職業資格取得への支援において今後必要と考えられる配慮や課題について整理する。

今回の調査では、6割近くの人が在職中に資格を取得していた。資格によって取得時期は大きく異なり、医療分野などのいわゆる業務独占資格では入職前に資格を取得していることが前提となっているが、福祉分野、ものづくり分野などの技能・技術の資格、ビジネス実務分野など、働きながら職業資格を取得する人が多数を占める資格も多く、働きながら取得した人においては「仕事との両立」が最も大きな課題となっている。

職場の側では、資格取得の活動に特別の対応をしないというケースが多く、職場からの要請や勧奨により取得したという場合においても、約半数は特別の対応はなかったとしている。また、支援制度を設けている企業も必ずしも多くはないが、学費や受講料の補助をはじめ、制度がある場合の利用率は高い。勤務時間の短縮や残業の免除など労働時間面での支援制度を設けている職場は少数であるが、働きながら資格を取得する人の最大の課題である「仕事との両立」が図られるよう、学習しやすい環境への配慮が進むことが望まれる。

職業資格を取得したことにより、働き方や処遇、収入面で変化があったという人は必ずしも多くない。同様に、資格の取得と関連して職業生活設計を見直したいと考えた人も必ずしも多くはない。しかしながら、資格によっては、資格を活かすことができる部署に異動した、資格手当がつくようになったといった回答が多くみられるものもある。在職中の資格取得が職場においてもっと評価されるようになれば、個人の主体的な職業能力開発や職業生活設計への反映に向けた意欲も高まるのではないかと考えられる。

新たな就職をめざす場合の職業資格の効果について、半数以上の人々が「資格を活かせる仕事に就くことができた」と評価している。ただし、求職活動中に資格を取得した人に限定すると、「資格を取得したことは就職活動に効果がなかった」という人が2割強、結果的に就職しなかった人が約4人に1人いる。求職中に資格を取得した人は、就職活動に役立てたいと考え、取得が比較的容易な資格を選択する傾向がみられるが、自分の適性・志向や地域の

労働市場の状況に照らして有効な選択となっているか、助言や情報提供を受けられるよう支援していくことが必要である。

これから資格を取得したいと考えている人は、資格取得に関してさまざまな課題を感じており、特に 30～40 代の中年層においては、費用の負担、時間の確保、仕事との両立など、資格取得のための活動に伴う生活への影響を心配する人が多い。また、「資格が実際に役に立つかどうかわからない」、「学習内容や学習の進め方がよくわからない」といった声もあり、費用補助や両立への配慮といった資格取得活動全般への支援と併せて、それぞれの資格に関する具体的な情報提供が重要である。